



今月は産業界と意見交換を行う二つの会がありました。この会で産業界側から出た話題に共通するキーワードは「コミュニケーション」でした。

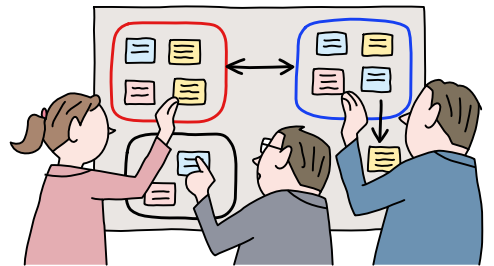


## コミュニケーションの背景



一つ目の会は鳥取県産業教育振興会西部地区行事です。西部地区の高校と特別支援学校、中学校代表が集まり、会に所属する企業の代表の方々と意見交換を行いました。ここでは「若い人に理解し難いところがあり、これを世の中では宇宙人と表現していたが、現在はZ世代と呼ばれさらにコミュニケーションが難しくなった。」という意見がありました。

二つ目は本校で実施した学校運営協議会です。こちらでは、「生徒の皆さんには社会人になるに当たって『コミュニケーション能力』を上げて欲しい」と要望がありました。



コミュニケーション能力とは伝える力のことと思いがちですが、まずは聴く力です。相手が何を言っているのか。また、相手が本当に伝えたいことは何かを理解する力です。相手が求めている回答をしなければコミュニケーションは成り立ちません。

やっかいなのは聴き方も伝え方も人によって異なることです。162号で取り上げた男性脳、女性脳のように、脳梁の太さの違いによって真逆のコミュニケーションが存在します。その上、年代や地域などによって育ってきた環境が異なりますから、それぞれの環境に応じて当たり前の感覚が異なります。親子の会話でも、お互いの育ってきた年代の環境が異なりますから話がうまくかみ合わないこともあるでしょう。また、高校に入学したとき、出身中学によって共通点があるのを感じませんでしたか。このような環境による違いを意識して相手の話を聴き、相手に適した伝え方をする努力がコミュニケーションには必要です。



さらに、年齢に偏りがある集団や本校のように男性が多い集団など、ある特定の条件に偏りがある集団ではその条件の多くに当てはまる人たちの考え方が正しい考え方として見なされやすいものです。しかし、この感覚はその世界だけで通用するものであり、一歩外の世界に踏み出してみると、偏った感覚であることに気づくはず。多数決の論ではなく、少数派の存在に対しても意識し、思考のバランスをとるよう心がける必要があります。

もしも、自分の思いが正しく伝わらないことがよくあると感じているなら、自分中心の偏ったコミュニケーションになっていないか見直してください。

校長 松川 明義

【行事予定】 11月28日(月)～12月2日(金)：2学期期末考査

12月2日(金)：頭髪服装指導

5日(火)：球技大会

今週末の大会等：ジャパンマイコンカーラリー中国地区予選（広島県福山市）

